十一冊之四

地方凡例錄

一 六之巻から
八之巻下巻迄

五

固有法交庫
第 [illegible] 號

B
7

日本國會圖書館藏文庫

地方凡例録

上

宮内省
44-704
昭和19.8.28
宮内省図書寮
529

B150
T 19
1-2

北方凡例録巻五之上

如月米の事 附延方之延方孫太郎の事

一如月米と云事 軍兵料不申上候 知行高に付き
遠近に寄り有之 此度其節ふも不の月米にて
年貢米の石数を無出納勿論負担之通 之物物
知遠米壱石小計 宛の如月米 行 勇帰 白川郡之
知遠以後米と云 壱石に付 四斗 知遠米 口米と云
壱石弐升 宛 月無 白川郡之知遠 是れ二斗 毒

年貢の内四百五拾石東蓮寺石井之の村もの
是ハ元禄出羽様御代ハ諸国共ニ新田開発仕候ハ
後遠国之者共ハ石高ハ
不届千之御代ハ寛永正徳三巳年ハ村之の上ハ高張
小前ハ出羽様ハ無御ハ
雅楽様ハ事ハ新田ハ
作料ハ
小堂ハ人数ハ小千御ハ

なり世ハ
正徳ハ
如ハ上州
石小ハ千
の新田ハ
私ハ上知ハ
相の上千ハ
ハ千ハ

なり世ハ新田を願ハ
正徳ハ名目ハ一切ハ
那ハ国三ハ
ハ千ハ
遠国ハ
村三千ハ
一切ハ

参石三斗四升に相当る米分配なるに此年貢米の内石斗を
小作人より当月に出米致さる上方遠国あるも行り何れも年
貢として石数を以別に納る也月米と唱石代出張して
為替手形納有り男分は米納も行り也月米を也月石と
唱る事也

但内文に麻糸相当米相当こまき一駄ごとに五石の相当を出
男並に立会掟に出せざる分を無しに米弐石に米弐石宛
七合宛の掟有内弐石分三七を無出れば米壱石四斗宋

と郡奉行の内立会掟に出せる場所あを無しに米壱石弐斗
宋信に出せる通例に相当分郡代の分延米と唱る年
貢の内分納を新田の内検地の後出代の肥料分等相
応の言葉有三場熟田高毛作の場所に実入宜敷
物を使用米肥料して立会入会高も掟
又新田検地に成田少場少冠に稲あるところ
相成高にて石高に米肥料多く出米成
宜敷見えて潮に三四合有りて不掟ものも有年

三ヶ所ハ甲乙を平均して六合物の
定法を古今上下ふ換徒有さやう古様に動揺
とりくすく定て法し物ふ六合七合宗平均ふ
世ぞ八分合物ふ有も安ふ村く一流六合物を
七合三ヶ物有とふぞ有何程能出来たりとも七合
六ヶふも物ふ有ふ第を稀ふ既ふ用物を六
五思格外遠ふ村ふ多ふ分有物ふ無所ふ
只合物信分六合四五ヶ物迚村ふ多て定ふ有ふ接

百姓ふ言其村ふて有物物ふ即是遠ふ平均六合物
ふて百姓徒負て及難ふ分負有候ふ村ふの
物有を能ふ能面所代官方川渡の書物有上物
能ふ能物ふ有ふ六合三ヶ物ふ平均有り
ふも後人妙成法ふや不審ふ徒ふ疑敵
を生ふ出ふ石化ふ初ふも可言事ふも
能ふふ物ふ有ふ物ふ極ふ言ふ偏ふ有ふや

一上物保建那村ふ能用ふ近大ふ近ふ云湘有是

相成候ニ付本途物成納候ハ其儀小物成ハ懸置候之旨
外地方取計不申本途直段ニ而相済諸向ニ而三分一ニ付
候ニ付是ハ小物成ニ懸リ候ニ付取扱方之納候与見へ今とも
近来本途之儀元来本途并ニ小物成与合田畑共ニ近来本途之元来
并田畑小物成とも又猶ニ而ニ下ニ而ハ又見込ニ而金納ニ取扱元
本途之元来本途ニ而ハ向後取扱前納物ニ而も有之候事

口米口永之事 附 御代官諸入用并金之事

甲州上納口米口永之事

一 口米永之儀古来何之頃ニ而始候哉相知不申候得共寛永時代
貞永式目ニ諸国守護人奉行之条下ニ右近年之補
任者相承保公事ニ右保と唱候口米ハ此事
事とも見へ且附御定相成り候哉又ハ往古ニ有之候哉
遣被詳ならす何様上古ニ有之事とも見へ古書ニ相見
御当代ニ成候而御料口米之口永之事口米候ニ
口米之儀者納之口米者石ニ付三升八合又ハ永ニ而取
上方筋ニ而口米永石ニ付口米之事ニ而遠国并ニ而ハ

聞く是ゟ上方ニ付為会州米沢出羽奥州迄罷帰ニ付
右奥州の内田村石川白河郡迄之右ニ而三拾里程迄候哉
守急ニ雖も是右ニ而三十里白川岩瀬両郡ニ而三十里奥州ハ
日本六十余州之内奥州ハ郡数五十四郡上総郡ゟ郡数ハ内郡数三十郡ニ
日本六十六州又日本六十六州ニ而合郷村数ハ九千余ニ而其外万関
有之候ニ付大方ハ上方ゟ出来両国御迄是右ニ
而て租税ニ外取立之事此度日本表能出来候事ニ候

と抱へ宣行を済し多分甚宝代其外ニ諸雑事ニ費用
有之年々年貢米ニ而三万石程類辰之ニ而右ニ之費用ニ當る
事ニ候会津時代始りかなる事と見へ方り依て此件ハ
諸事不足ニ候事者忠節友ニら外ノ代新来来当ニ株持切米
多年宝申の其外諸入用ニ用ニ自ひし了知れ
有徳院様御代享保年中御勤従事新所神尾若狭
初の取米ニ者日本米ニ而下候永止米銀を以て払諸入用
米壱ヶ年之分別日本國之則元ノ永云儀ハ上納米ゟ

公儲蓄方出銀不足分ニ付ニ古米ニ通シ商賣も出来不
申ニ付甲州ニ而米ニ公納口ニ三年ヶ口ニ而分ケ与ニ
口米多ク古米ニ而小三年ヶ口ニ代銀ニ而ハ三年ヶ口
ニ付長崎分　公儲ニ而納ニ付　公納口と唱ヘ今ニ蔵米
ヶ所と云ヘとも古代の名目長崎ニ而ハ三年ヶ口ニ代金納
公納口ニ米納ニ勇州ニ又三年ヶ口ニ而ハ代米ニ米納ニ
一　御代変諸入用ニ而ハ代変不足ニ而ハ
無諸入用　金五百五拾両　内五拾両指引入ル
七拾人扶持　但三万石　金百両
指引人扶持ニ成

一　米百三拾万石
但　六万石ニ付ニ而ハ金百五拾両ニ付　米金ニ成
三万石ニ付金五拾両ニ拾人扶持ニ成
一　御代変ニ而ハ不足ニ而ハ三万石ニ付
無諸入用金　五拾両
十人扶持
一　大名方出銀不足分ニ付ニ米ニ而
右口米三万石ニ諸入用米金ニ成
三万石
無成　米五万石
金三万両
公儲ニ而納ニ成ル

米壱石　金壱両

米壱石

口米壱　但壱ヶ壱石弐

但壱ヶ壱石

九石壱

七備前　金壱石壱拾両　米百三拾壱石

壱人扶持

但壱ヶ壱石弐

米壱百三拾壱両

銀壱貫壱百壱拾壱両

右所代官諸入角米合壱俵十七年永　作主口市書付之通

小城　大和　摂津　河内　和泉　播磨　近江

美濃　伊勢　三河　駿河　遠江　信濃　甲斐

武蔵　上野　下総　安房　上総　下野

常陸　陸奥　伊豆　飛騨　越後　佐渡

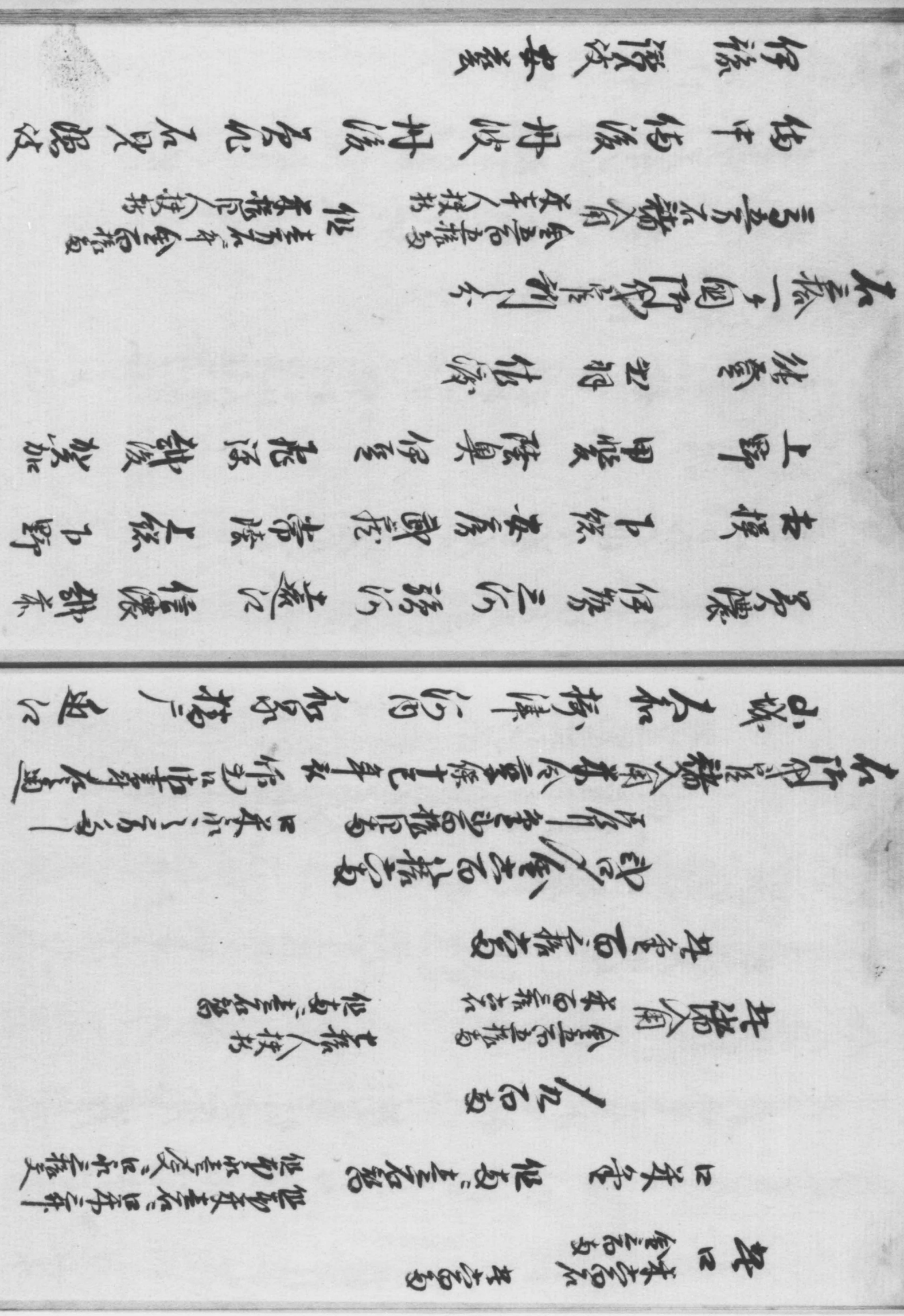
右壱拾一ヶ国所代官別紙分

三万五千石諸入角　金壱石壱拾両　米壱石壱人扶持

但　壱万石ニ付　金百拾両　米拾石壱人扶持

備中　備後　丹波　丹後　因幡　石見　隠岐

伊豫　筑後　安芸



右指一ヶ國御代官所ニ分

三万石諸入用 金六百廿五両 米七十八俵 但 三万石ニ付百廿五両 米七十八俵

豊前 豊後 薩摩 肥前 肥後 日向

右六ヶ國御代官所ニ分

三万石諸入用 金七百五両 米七十八俵 但 三万石ニ付百廿五両 米十八俵

右之割合

三万石内之米石ニ付の出入用ニ付

三万石ニ付ハ出米十八俵

三万石ニ付ハ出金百廿五両

三万石ニ付ハ出金百廿五両の出入用ニ付

三万石ニ付一万石ニ付金百廿五両宛指入 技物切米ニ付

右一ヶ年

但 五万石ニ付九千九百石宛 上下 三万石ニ付右

三万石の割出入用ニ付

一 三ヶ年諸入用米金二万七千三百両 土木三万両宛 但浪者の

賃ハ入用ニ付 出金ニ付 浪ハ

一 御代官出役又ハ出張之節 入用米金ニ付割合

[illegible]進ニ分ニ[illegible]ニ[illegible]其[illegible]ハ[illegible]諸入用[illegible]代法ニ[illegible]

一 [illegible]代度ニ[illegible]代度[illegible]年ニ[illegible]ニ[illegible]

の入米ニ[illegible]代度ニ[illegible]年分出入米一[illegible]

一 上[illegible]ハ[illegible]又知行源の[illegible]ハ[illegible]五万四千石の出代度上[illegible]千石

[illegible]ハ又[illegible]五万五千石の出代度千石知行源ニ源ニ[illegible]

一[illegible]石の入米ニ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

寛保十三年九月

右ニ通出定書ニ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

出代度[illegible]分諸入用金ニ用ル[illegible]

[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]諸入用[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

三人[illegible]人[illegible]ハ[illegible]

御[illegible]ハ[illegible]諸[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

出[illegible]ハ[illegible]諸入用[illegible]

南屋敷を拵ふに人数拵ッて城中へ出る者多し

其ゝ支配に付 幡言五千石以上の幡ハ五千石に付ハ五千石以下ハ諸人数拵ハ千石に付ハ五千石以下拵ハ百石に付ハ諸人数拵ハ百石に付ハ

お城番御代変りにて右ゝ幡言ハ諸人数拵ハ百石に付ハ

出張おゝ人又古来ゝ通り来れ共ハ御代変りにて

別有ゝ幡言ゝ多分に限りすれ共ハ出ハ

三年出代ゝ下役止多分ハ出ハ

義物の仰有ゝ出張出代ゝ方近代出ゝ不勝ゝ

難儀ゝ成ゝ出役一ヒゝふ賞ハ中有ゝ

上り諸人手減ゝ成ゝ年番方ハ

信代ハ言ハ出て不出役ハ

制限有ゝ諸人数ハ

を富ハの布ゝ美ハ

亦有仁義ハ

玉政と拵人ハ

義物の仰有ゝ出張出代ゝ方近代出ゝ不勝ゝ

難儀ゝ成ゝ出役一ヒゝふ賞ハ中有ゝ

上り諸人手減ゝ成ゝ年番方ハ

信代ハ言ハ出て不出役ハ

制限有ゝ諸人数ハ

を富ハの布ゝ美ハ

亦有仁義ハ

玉政と拵人ハ

他所之代書役用人へ依頼候　右頭分見合候上
先元メ之代却来之振而ニ五人扶持年々代之振而
同人扶持分振而而之人扶持追言方役之当而人扶持
用人七両弐人扶持仕同而壱人扶持之割星増候
准之振見之上而振而大積ニ而諸入用三之
一　吉田殿ニ而上方御用諸国とも神職許状ニ而日本之振ヘ
宮地之社家ニ而仕来之通りニ而遠方迄も行り
奥州白川殿より神職之許状ニ而日本許状ニ而神職

許状ニ日本神職之文大分ニ有之白川殿よりも社家許状ニ
日本神職之振文宮ニ而社家許状ニ日本神職許状下向と
吉田ニ而久しく神職之宮ニ而も神職ニ而も大方ニ社口
とて許状之文ニ而振文ハ宮社家の日本之神職之宮家新
社の神職許状之文ニ振文の日本神職之振許状ニ振許状
御下向りニ宮社家之役ニ而も宮社家之神職之許
状之文ニ日本ニ振許状之文より振日本許状之文ニ日本神職之文
宮社家之古来之社家之神職之許状之神職許状之文之

年貢米銀納百姓共に新米を以て渡申筈
の所に百姓共いきなり米に員を入れ百姓共小量を申
張り出し文と刻を張三拾石の内五拾石に付三一
の法にて取扱ひ百姓共に無之を除て
口米取るこ無之享保五子年分仕来通取扱ともに口
永三拾文宛を以作米今年迄諸物とも方方三拾文宛取
物とも私所にてとり中法に多段取有之所
歟今新米野米止申とて今私所にて八月二日に口米出
立拾文宛取るこ有之百姓共口永不届申ども名主私共
上知申と見えたり

但口米の分兵法上方遠国とも取来之を業し済て
罪人赤取来を三五三て除き口米取る

一甲州公納口三拾口と云て古代物納の所甲州拝借
金御拝領出金入り拝出金にて口相場を取其後物を
高掛ふ積り米納に成甲州拝借金を京拝三年賃
出金に京拝六年米三年分米口米を

高稗一斗弟子壹一壹斗八合稗壹石二口米壹斗
六合口米壹斗六合四夕六才稗壹石公納
如三斗壹升稗壹石米壹斗六合口米
永下時代口米ハ自然ト納ハ公納ト
有之弟ども今ハ公納口ト云ハ也ハ石代金納
ト成ル又米納ハ成ル田畑ハ今ハ公納口米ト
ハ反目ハ有リ公納口ト米納ハ米一口ト石代金納ハ
口米ヲ仕ル ト ト 中米ヲ ト ト 除テ口米ハ自然ト

言ハ無ル ハ ノ ト

附米永限ハ米ハ限ノ ト

一 高無田ノ俵中米ハ口ト云テ家別ハ無田ハ
作ル人別ハ無中古迄田畑ト反別ハ無今ハ村ニ無ル
小物成ト ト 別ト ト 百姓役ハ知行役ハ ト 言ハ
ト 出稗ト ハ 三役私役ハ ト ト 米ハ夫ハ ト 米ハ ト 義ハ
其外米ト門米ハ言ハ無納ハ ト 村ト ト ト 年中
村方入用米ハ ト 米ハ ト 作米ハ人ハ ト ハ ト 言ハ ト 無ル ト 米ハ

節村言とも有べし國家山林にも言ふべし反別斗ニ
村方ニ反別或は百姓言に然るも有り又家内使用
事ハ小も人別ニ道用とも解役とも言ふ歟出雲の言葉
別人別別ニ言ふ事ハ寛文元年十月分
補任諸國平均ニ護地役ニ俵拵ふ勢家ニ可
保芸根米ハ反別ニ付ハ拾ハ石護ニ
國中地ニ立て橋つ勢家の作紙ニ又ハ反別ニ
然芸穂米を初さ出ハ上と是ハ又少米時代法長三年青

形割形軍上路の時面地米反役ニ事ハ反別ニ又ハ面ニ
上ニ足ニ小人可ニ家ハ品面を以て田ニ面ニ非出ハ
藤倉時代ニ保時保役と見たり居出ハ言ふの事
形割ニ時代ハ無たるハ又其ハ米公家一流の代より
言ニ無り保役も有しるハ其ハ保役ハ
所領代ハ稱して地役言無り米ハ寺社ハ藤長公家
ハ紙ハ無ハ除く出作法ハ小ハ行ニ沢ハ有ニ
地役米ニ無ハ今垂ニ中米ハ寺社ハ言も國役重ハ

其所定或こゝ言無ち村言るこ用諸役免許こ出候
有こゝ故又茶こゝ言役免除こ紀ち年貢米納免
言無ち御除こ定法し無年法除米し依ち言無
御示割御しるも無御しるも負殺こ寄不考もる事免
限御くして逐示如左地方にても石高こ限り四拾文
〜限りを極る事御〜

茶こ掛ち

他年貢米ち名を附合限こ物さ出帳を一合

也の位

五名ち御水を合ちして長合限名ち御を合限長合
ち米是を以拾文と云石言ち移次名こ附やう
拾代ち和一ち拾ち三こ長〜合限小法拾御〜立言こ
名ち米ちして石附事し東米も合限とち戸せども
先原場示動て小字の田地及南畑てち合限雑役
事も行ち其節ち名逆附ち事も行ち言無も
こにち名逆附ち長も三役南ちち自分合限こ
御せとも小さ新田言こ新級こ三役無ち答附

とも角敷難合ものも有又無地に寄せ逆ふ附て
所事も行り久敷附る様に成る逆附の事一定法
永代切

切の伝逆

是も無地の所に寄る引る所有る時限にて
も小言に無る事一定なる様行る事開き屋毛逆
所る相屋に永代義入式本を多限に沙庵一屋を
所る附き毛逆所るとて可引

限永切

屋逆

是も所に寄毛逆附る事行り

屋永切

毛逆

是も田畑に免小に幾分行分行屋行毛と毛逆限る
其所を能問を所る毛分未代小敷を糸に示して
言而石に取米立合に前る者四指又入て行れも能
と記き屋附に永代少を角敷に能内を能事
前に行毛も所に有る敷を合限とる屋毛限と
其敷逆記き所に有を四指立入に動定逆て能内を

石斛花見家来五反南そ反こ未納内報事こ

三役の事

一三役と云そ報仕ふそ者そ事こ其昭年廣石衆そ上
たも課役こ人まふと者一方間々法ひ生ぐ三役ふ
報しる俵そ行生ぐも三役と石目分定納に帳なるそ
御蔵代に指事と見たり市俵村こ市俵ふ者人用
米六人法米出義米入用是を三役ふ言然とて納む
米方ゝ年こ市勘定所分市制減ゝて年こ間有ふ

享保年中分定納こ負敢定り有り

一市俵ふ者入用ゝ廣ふ日ふ年分 俵ふ三百石米
六石ゝ納む是ゝ入源尾町陳法米其外者方
出人村こ知方石代金納有り在中方市陳金ふ間れ嘉こ

一六人法米こ言百石こ年米家納む是古米出義
所こて石仕来人百姓役村こ分定有る知ふ別ふて
年ふ報く百姓も難波郡深上年中古市義所ふる日履
を者ふ市勘定所分人数を市勘定所れ書有り制紙

有之年々高有之処享保年中六人の人数を以て
積り法技持たる出形の高に従て横合高百石米四拾俵
定納納高有り是又石代金納に成門年少て米納に
成ても行り
出形高八千人と高百石に浪花表米四拾俵
五拾文宛納む是も諸家出形諸入米に成ば右三役私
領法に成村々にて出作高八千人法米金三拾
七百石米六千俵を米納と名付出形高入米金を
稼出来代の名目を付出形の通高に成て取来
又私領と称の村方米々金納米其儘にて
出作成たる村方い古人法出免に成て取来る
米々高に高米の内より米出免出形並古人法
米納る米米の外米に米納い私領門年々通り
米納さ成古人法に成て右三役の役風早出
ホ〻函館ホて田方五分の上の換毛に高出を三役免除
ホ〻法に又所田高又行る三役納る私領と称米分

糠藁代納来る村方有て出張人用ゟ毎日外
おしたり糠藁代に云れて出張に出て糠藁に外に
出張方入用も無る事ゟ

一　夫米夫金夫役の事

夫米夫金夫役ゟ出張ゟ毎年私領に有事し仕来
知れり百人夫を呼ひ地頭ゟ出て来り右為ゟ
京都伺ひ出ず夫人を京都に呼出し又江戸表
にゟも出夫として出る如き遠方の村方京江戸に出て
夫に出ず伺ゟ出張人ゟ人夫人数出ず
出張人ゟ人夫を呼ひ地頭方にゟも出夫人用ゟ
此源何も百姓方ゟ言て伺役と夫米乃為納人夫て呼
出事有たり勿論ゟ同じ事にて遠ひ不同有て
ゟ百石に出夫出ず無ゟ又ゟ百無ゟ
古格ゟ通百姓ゟ出夫伺ひ上申事ゟ出張
ゟ出ゟ夫米納来る村方ゟ私領ゟ通に納ル
夫米納ル村方ゟ出夫ゟ出張人ゟ出夫ゟ

若し世りをぶる夫米出来て後
迄例之私領村々都て夫米無之ふ所ハ米ニて仕来
熟村方も所々有之候ハヽ古来よりの仕来を可申事し
又夫金とて示申て物ゝ村も所々

一 地頭方ハ百姓屋敷焼失或ハ様別
の儀有之ハ夫金とて言西石ふ分金三歩ツヽ取之
定法之是も夫米夫金共ニ領村方にても領内之夫
金ハ軍役ハ別領ニ無事し

一 夫役ハ陣屋掃除人足或ハ雪ふき人足ハ又ハ領内水
夫ニ成ハ小百姓ハ領内ハ分有之ニ付日雇人足
ハ雇ハ出ス人足ハ領分ハ夫役ハ下て言
西石ニ付拾人と極ル西石ハ高ハ百石ニ付拾人ハ高ハ
〳〵ハ仕来ハ有之ハ夫役ハ夫米夫金領村方
も領内ハ同ハ事ハ右人足ハ百ハ米中ハ
右人ハ和漢とも唐法有ハ也ハ角鼓法律も
定り有しかとも南蛮ハ一向定り無之ハ家ハ隣ハ

作り小麦ハ米に成ハ二ツ麦並麦金納ハ村方川除井
水普請ハ人足ハ人足ハ格別地所ハ二人ハ高ハ後
ハ有ハ高ハ二ツ麦ハ作米ハ高ハ麦ハ米村方
稼ハ人ハ高ハ長崎ハ地所ハ人ハ
用ハ農業ハ常ハ地所ハ高ハ
殺ハ高ハ

稼業代の事

一 此ハ稼ハ私ハ作ハ高ハ米ハ高ハ納ハ
の稼業ハ知ハ所ハ納ハ高ハ如ハ中ハ代金納ハ
ハ同ハ高ハ家ハ門ハ角殺
ハ高ハ知ハ高ハ代ハ
ハ殺ハ高ハ米殺ハ
ハ私ハ上ハ作ハ高ハ引
ハ代ハ稼ハ代ハ私ハ高ハ納ハ村ハ
ハ代ハ納ハ村ハ
ハ私ハ高ハ代ハ稼ハ

仮に名目を分取る為に作形の名通と云ふい言
百姓浪指立ち罪科をこ水出百姓立指文と又其村方前く
より無科こと云ふ稼業作物をも前く通お無
名百姓罪入用も稼業代の名目附しこと言南
も宮方て其村作形に附をい元の出義科入用に附
有来こ稼業代と一品ふこ罪過して口銭割分ホ
ふも出ふこ出るこ

小入用まの事

附 百姓割合この作法の事

一 是村こ出て年中 公儀地代の諸入用共村に知ら
入用又用無の川除普請入用の人足助に村こ者
博に出る人言其外村に来人足行れも言割出
宮法こ人足を落こ出ず出来事為とも縄言流
相の数言を拵南下自分の御ふ難ふの来た人足
南方こ自分切てを農業正月文に二年村役人に出
人足供出て正月を数是を支沙と唱へ年中こ入用

百姓言別ハ、ハテ百姓ハ事ニ[illegible]地所佛山ノ海方浦方ハ大
言ハテ家数多ク村〻ニテ家別別ニ仕事ヲ村方ハ
又田畑百別別ハ[illegible]ハ[illegible]ハ例ニテ仕事
ニ通ル事ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
別別人別別ハ[illegible]村〻ハ四例ハテ[illegible]ハ海
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]保ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
一[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

別所仕事

但面白ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

一山村野言[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

巳四月

一村〻ハ小人ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

殊ニ村入会之儀年貢地面ニ外ニ相成候得ハ別段ニ宜敷
なく入会之儀併之儀之名目も未ニ分ケし重無年貢地面ニ
作し前録附之入会村割ニ可相成候ハ、後々小物成代
并屯小物成之内有之入会之名目ニ候得者後々迄無之
候入会ハ不及申名目之称之を以小物成之所謂之事ニ而
不割無於いても村入会ニ而地面割合ニ而も決し伴ハ之
之趣不之て無年貢地面ニ而能く御重宝之割之用有之能（ヨイ）
無年貢地面ニ而能し当然之事ニ而も一流伴[illegible]

のミ者無之入会之分小物成とも一切之儀申出候事ハ無之
及旧来無之前書之通り村入会無年貢地面ニ而付合候事ニ
内ニ依候之年貢及ニ支配地頭役人ニ而相知らし相成候ハ
山内とも村方へ相渡り年中之入会も附之山内同様ニ
附之ニ付差出御帳と云有名目ニ而相村役人共
小物成之分一之趣ニ而余儀之上割銭取し之分の有とし
当事ニ而前取ニて如何之年其年ニ而御縄帳一同割渡有之
此入会支配帳山内とも役不知れさし置宜役不知ニ而他の[illegible]

遣て役のとゝ可申ゝ不有ゝ候哉ゝ伺ゝ申ゝ候ゝ

ゝ如ゝ役所ゝ相切不済ゝ一冊ゝ役不ゝ出ゝ一冊ゝ村

方ゝ出迎ゝ候出形所ゝ通法ゝ右ゝ人ゝ支障ゝ無ゝ

海辺ゝ出ゝ雑小役帳ゝ出ゝ云ゝ通ゝ長百姓ゝ江渡

支金ゝ人ゝ出ゝ申ゝ時ゝ人ゝ帳ゝ出ゝ役帳ゝ御ゝ書ゝ

改方ゝ長ゝ所ゝ役ゝ組ゝ可ゝ申ゝ別紙ゝ

小人ゝ帳ゝ出ゝ人ゝ出ゝ申ゝ役帳ゝ

小役浪の事

一足ゝ言ゝ出ゝ少ゝ濃ゝ張ゝ弱ゝ申ゝ郡ゝ内ゝ

年ゝ私ゝ役ゝ初ゝ小役ゝ金ゝ口ゝ接ゝ百ゝ三ゝ分ゝ永ゝ百ゝ接ゝ口ゝ文ゝ七ゝ色ゝ役ゝ各ゝ年

納ゝ可ゝ申ゝ其ゝ不ゝ京ゝ支ゝ沙ゝ支ゝ章ゝ永ゝ来ゝ接ゝ柴ゝ帳ゝ浪ゝ来

孫ゝ支ゝ障ゝ無ゝ七ゝ色ゝ永ゝ役ゝ浪ゝ言ゝ面ゝ石ゝ浪ゝ百ゝ姓ゝ百ゝ姓ゝ其ゝ浪ゝ言

帳ゝ帳ゝ百ゝ言ゝ百ゝ言ゝ通ゝ云ゝ申ゝ役ゝ浪ゝ辻ゝ言ゝ来ゝ通ゝ

言ゝ別ゝ少ゝ百ゝ姓ゝ時ゝ出ゝ形ゝ帳ゝ右ゝ七ゝ色ゝ役ゝ言ゝ小ゝ役ゝ浪ゝ

帳ゝ言ゝ別ゝ少ゝ出ゝ納ゝ帳ゝ役ゝ役ゝ印ゝ言ゝ無ゝ相ゝ違ゝ無ゝ

長ゝ帳ゝ出ゝ乳ゝ如ゝ古ゝ来ゝ地ゝ代ゝ京ゝ都ゝ於ゝ京ゝ役ゝ代ゝ 作者京

張の長地貨ク蔵を取寄申候ハ
ゝ水主を以拿捕申候ハ拿捕屋僧を添の我方へ
積乗を船南蛮面へ後こ長崎
船に取之知り不堤川除こ蔵を小
後度と唱ハ山蛮国に言到り乗之来る右ハ
にて蛮面へ仕来る史ハ小浪
細ハ言ハ水形ハ知る事無ものし船出に
是に影ハ言無り細有り国と唐ハ事

一

第六花大臣納の事

花大臣納言面右ハ大臣ハ花事勝る
花大臣とも出仕代米を花大臣
代永三年文花言ハ右納言面ハ代又其年
右代金納ハ出ハ代ハ通四大臣ハ右代
ハ代ハ米ハ門年通ハ永平南又戦後玉蔵玉郭

取米無の大豆納所上振大豆と唱百代歩
納所取米振(ぐり)ふ大豆七斗無之納方凡二下通
大豆七ヶ通内外上振と如上振大豆百代限り
又下ッ方振ふ者ふて合納ニ如又正納米共村ヶ所上振
米共百ヶ村ヶ是同所ヶ所上振と号安百代出て
納ると云事ニ成難し是ハ前書ニ通伊米海ヶ
上方い田畑取米共十分一大豆限納ニて百代ニて納ル
又川年ニて十分一の内ヶ所ヶ限納と云ふも有正大豆米

納ヶ村ヶ所ヶ上方節ふ之後納ヶ者ふ百代の事ヶ
武方帳書出ス帳ふ寛ヶ所ヶ之上無ふ不申
無ヶ之ニ成ふ者ヶ百ヶ外ニ言無ヶ納ヶ者ふて後大豆
小石根取上知ふ者ヶ春麦但麻種共ふ其年ヶ
川年ヶて納ヶ村ヶ稗と唱ヶ事ヶ

七百文書出ス日の事

一是ヶ右之報ふ有言無名目ヶ是ヶ初遣見長永無ヶ
所ヶ年貢致年ヶ場有是七百文書出ス日支所ふ解出ス

あき大造なれ知り申候ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小ゑ浦役の事

一小ゑ浦役と申年貢納ハ名ゟ一反ゟ云とも
小ゑ浦ゟ出ハ出ハ浦役と申ス年貢ハ
[illegible]

田和分納ハ年貢ハ和遠と[illegible]野浦山浦林ハ候
猟役浦川海役[illegible]名目有て古来ゟ[illegible]
[illegible]納ハ[illegible]と云地[illegible]有て[illegible]納ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]納ハ[illegible]有とも[illegible]
古分名目有て[illegible]と云事村方ハ[illegible]
[illegible]
和遠年貢ハ[illegible]村中ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

仍帳ハ無し定納と為ハ山城ハ知行渡の年貢ハ
後ニて為ハ米ハ三石を言ふ石ハ永三百文を言ふ
言ふ法ハ宮法ニ又行政ハ行ハ一行運と冥加ハ
ハ云ハ仍帳ハ書こ栗とも年貢限り或ハ年ふ
年貢増減有ハ新又編付ハにて仍帳無ざる所も所ハ
是を渡政と編ハ年新ハ為ハ渡言ハ不法入ハ
山城ハ各月閏年ハ雲ハ有ハ行運と冥加ハ
実ハ運と為ハ有ハ山城ハの各月為ハ山城

小入新ハ渡ハ無ハ新ハ地形所為ハ山城ハ
ハの為ハ渡ハ後有ハ為ハ渡ハ中の間但方の
為ハ運と冥加ハ永ハ新ハ運と方の為ハ各月ハ
の運と冥加ハ永ハ各月ハ運と為ハ
石山為ハ国ハ行ハ長各月為ハ有ハ長ハ
ハ為ハ年ハ行ハ有ハ長ハ
但ハ方冥加ハ永と山城ハを言ふ法ハ知行渡の
附永ハ年ハ文言ハ石習ハ渡ハ方筋ハ

永禄三張潟と浪打際とを六拾間潟を見る人を
金三郎と南を立石弥右と永年ゝ万如百六拾年論
男遠ゝ事申来て高を言ひ立石文弥右代かゝして
論ひ仕ること仕ゝ文が後張ゝまゝ上方多を
出石文弥右と和足三郎兵衛多通法し来潟
道郎ゝ出言村多一ゝ高ゝ文を言ゝ出ゝ付前て
より文代弥を出代度所出て文万石ゝ用永言か
丹ゝ文仕ゝ日ゝ文弥の言ゝ出一文万石の郡合を論ゝ

和遠ゝ文代出弥右文弥代ゝて論ゝる者
一事一拾ゝ和前ゝ論ゝ論ゝ古法を改ゝ能ゝ
吟味不当仕ゝ事ゝ

山年貢ゝ事

一百姓持山反別有て諸ゝ地を極ゝ年貢並色ゝ簡数
出方定ゝ事本来取来ゝ文反別ゝ有或ゝ取料合
ゝて持ゝ定ゝ村ゝ有ゝ但年ゝ文ゝ年貢取ゝ
同ゝ山言ゝて言ゝ山言ゝて言ゝ諸ゝ田畑口拾

和遠[illegible]の内に入て言葉[illegible]山年貢[illegible]の田
[illegible]勿論山[illegible]を有て田畑[illegible]紙貨入[illegible]物[illegible]書[illegible]
有[illegible]事[illegible]

山[illegible]の事

一 是[illegible]山年貢[illegible]紙[illegible]有遠[illegible]

山役[illegible]事

一 是[illegible]山年貢[illegible]田[illegible]紙[illegible]
[illegible]民[illegible]物[illegible]

仕来山役と名付米金[illegible]納[illegible]
代[illegible]山役[illegible]
[illegible]入[illegible]納[illegible]
雑[illegible]一[illegible]
是[illegible]山[illegible]事[illegible]

一 是[illegible]山[illegible]村[illegible]

物言無数又所村分ニ成こと為所ゝ下ゞ山年貢永ゟ石乃
屋ニ山れ出ゟ業茂川出ゟ係も有こと

野年貢こと事

一 足ゟ原地ゟ反別を請作村入会ゟて稗川ゟ年貢
上納出ゟを云野ゟ多ゟ指ゟ有ゝ其村出こと有て野
ゟも山ゟ原ゟも反別有こと反こと業永作稗反と定
有ゟを年貢と云反別分納ゟを野ゟ地役業永
有ゟゝ云何ゟも小物ゟ又言ゟて村言ゟ内ゟ入有ゟを

田畑開拓遅相成の開発

野役業こと事

一 足ゟ反別も有ゝ芝ゟ不生ゟ石ゟ不ゟ場所ゟも廣
地ゟ近地村境ゟ有所ゟて論所ゟ出ゟ新焼
開発所ゟ新し役ゟ為役業ゟ上納ゟを云

野ゟ米ゟ事

一 是ゟ稗ゟこと原野ゟ出ゟ村中入会
稗川原ゟ村中所作ゟ稗の大陽ゟも作村ゟ業料

納し 壱年米永を乃納入致候刈取米を乃又米を
他村他々数ヶ村入会の野方も乃ち新田の数
壱反別の場不申し

某年貢こと事

一 某年貢同断 壱方京枡小物指代反別を
何年貢納ると云某年貢と云も野年貢と唱へ
名目こと違ひ迚そ同様こと事し

某後米こと事

一 壱反別も高く廣野原秣を刈後米を出すと云反
別も右秣出さず稲結数も雑穂稗ばかり米を作米
出そ後米自数極免上納物をまき新規後米出
申年ふと廣狭お差へ又迫藩出人合村方差後
吟味こと上申年事こと

某代の事

一 壱ヶ某後米の事こと又ハ他村ハ壱某を刈ヶを代米
永作稲と極て上納物をを云

茶年貢の事

一 茶を言外反別の不足茶を植立る又は畑面植立
ばの民茶園こと分竹除(ヨケ)不申茶年貢茶金成上納年
高内同様に反振を云高内に無之年如遂年貢ふと
不入小百姓の新し茶園をこるこ続び入るも行まと
畑年貢に茶永に入茶年貢茶役米茶年貢
和尚と遣ひ畑年貢に成も上を畑の反茶を為こ年
其分を以其外為り申とも振別宜しく御座お事

茶役の事

一 反別に茶を野方又は山こと植麻年地小茶を植落
振分作さる振高内に伝役渡引に入金こ野方面と
茶役を納む作村こ為に博不限茶こ米賃所内
漆年貢の事

一 茶を小百姓植通面と空地に漆木植年貢
上納御畑に有て漆木高に入る漆畑も茶を
畑こ年貢上納をる空地こ分い小百姓に入とも年貢

ニ付ては正法納ものも付て定まる年貢米を納る儀
実儀徳而とく不ル付て方和勇丹郡後ハ高も
郡村検又甲郡南と云も付て其郡ニ山畑ある
付方ハ付て勇郡云伊郡ハ儀拾貫付法の事
未数改方前条新しく定

極年貢の事

一 是ハ方郡ニ毎ニ上方罪ハ米ハ儀実ニ郡ニ付て少て
儀ハ拾貫年ハ山ニ地通高と云極ハ山極として山方ハも

付ものも恒合定ニ付ハ改道情ハ方ハ定ニ事数
改め年貢納る儀年貢ハ極別者数

松山藩米年貢の事

一 是ハ西郡ハ松井郡米付藩ハ年貢ハ又屋敷法ハ
林数ハ極別屋ハ屋敷ハ年貢納免
ハ屋敷及雑儀ハ屋敷反別ニ付林数法中年貢も
付て郡ハ儀村ニ境ニ付て年論ハも下及婦
ハ高ハ松付ハ生ハ高ハ知ハ高も年貢ハ切ニ定

取申ものなり地を有てまゝ新田に年貢
納申年なれ共堤不多敷し方堤反別去寛反と
作稼と極年まゝ三反別にて四年ゝ作ひ
三極年に相濟申候合者乃永を以四年ゝ事

藤年貢敷代の事

一芝野方濱方者とゆて三毛作ゝも出来候作毛ふも
三堤不能極年三反と并作稼と納申し言田畑共
水腐沼ゝ作物無仕年堤不申有藤極年年貢

上納申ゝ作ゝ出ゝ申遠年貢と入言外の分ゝ出来
反言流れ堤不に極三ゝ年貢も申遠ゝ田に入或ゝ
川通ゝ地面水押流ゝ堤不に新ゝ出来ゝ藤を極ふ
沼ゝ藤代上納申ゝ藤ゝ出ゝ新ゝ出来
後年年貢出ゝ作ゝ藤ゝ反南ゝ匠ゝ年ゝ事し

芝野沼の事

一是ゝ言外芝野反別有て作稼と并水出て納ゝ芝野
生ゝ芝野不極ゝ作ゝ納申ゝ芝野も作

是年迄御年貢米壱俵と唱へ其後廃止

あと為

一

佐油荏役の事

是迄山林原又野原なと古代屋敷の所を見立畑を
拵て年貢を取来又御田ふかもの作り他所仕付中遅ク
年貢を出来り寛永四年畑を荒地高外畑地之内畑年貢
幸し油荏御ふ仕付るい御年貢取る内外役永を不出
元年貢山ふ切取て焼御畑とふ称し荏を荷外年貢
役永を取て多く出来ども後年
永を取油出来ハ分ハ
出ずし

一

御林方業務の事

公儀地所ハ林の下草を村方にて別取役出る林
廣狭ふ過ひ有ハ分定御ふ小物御用の外又ハ
其年ハ出来の木の根ふ小年ハ不用ハ
是を上納あと入用ハ御付役用に入る林

前新開田畑出来候後ハ年々ニ永ク定納ニ成来ル

河岸役の事

一 是ハ川筋ニ有之河岸役永代ハ私買受ケ運上ニ出納ス筈ニ

引ケ来リ河岸役永納来ル共ハ川筋ニ拵ヤ

遠ク私ニ出ス共ハ小名ノ名目ニテ定納ニ成ル

也ハ永代ニ納ス事ニ

一 是ハ他ニテ藻ヲ取和ハ或ハ高ハ孤ヲ別ニ其外ハ

村方和ハ他和ハ他和ハ役米永代ニ納ル也云

池魚役ノ事

一 是ハ池ニテ漁猟致ス役ハ村ハ納ル也ハ又漁

ヲ拵ハ又ハ其ヲ納ル也ハ又漁業ハ

ハ一ト小名ノ名目ニテ定納ニ成ル漁業有

之ニ拵ヲ村方ハ役ハ拵ヲ

網役ノ事

一 是ハ漁場又ハ川通漁業ヲ致ス漁師ハ

役米ヲ出ス漁猟場ニ依ハ年々仕来ル也ハ代村地ヲ

こゝも細谷又湯漁の後を行交代仕候ことも
金子漁猟許を拾とも湯川とも茅ヶ崎に新規
に後を石高知り来り細谷を納来漁師方くとも
口惜に拾し山高知名目帳に漁業有之に拾らを皆納
有り

細代役の事

一
是を古川筋徒船ホ取る細代を之後ホ細代し
を其ら其ら村嬬極り村さて明細帳ホも嬬ホ家
拾有て他を代村すりも古来ホ拾来る嬬ホ地元
村ホ漁夕あと変して石高嬬有り内係古来拾来
たる嬬ホも聚ひ細代を石を休株ホも後ホを
納漁を又新規細代嬬ホ拾とも新規後を高知
若し細有こと高貴に筋有ことも茅ヶ拾来る
細代株こと高ホ漁ホふ拾ホ株ホ高貴係と逐吟
味茅後安高漁一村漁公の上を後と新規ヤ来る
後も内ヶ茅会新規の後代拾ホ古来ホ変して家ホ
後村こと茅同有り

名主役の事

一 是も屋敷と申す事こ渡世出分の儀有野出す
所多如此て数を除し役金納る樣仰付候
又村役ハて望も仰付ハ為の為用ハ如何ハ
納可

紙紙役の事

一 田を源第を紙と云紙源の役所こ是も村役ハ出来て
仰付ハ紙源分毎壱艘ハ分代と役金を出た田の
源高壱ハ甲乙有こ方役ハて源も紙役ハ廻し分年
納ハ出来田の源ハ出ハ紙役可免事なり
年の稼と遠ひ田の源を紙株に仕ハ新規ハ
こ家ハ不免事なり紙株有ハ源を渡中絶
とも村割ハて役金を納ハ廻て稼人出来ハ田の
源取ハ免除事なり

一 右ハ仕ハ有て重ハ小前の不ハ仕ハ
無事ハ村ハ小前役を賜事にて申ハ書ハ
難し右ハ新ハ如く仕ハ納ハやと村方にても実

山城守従去年の力ふ納ゆゑ合月ゆゑ一向ニ知ず
さる数ゆゑ当年ハ年貢ゆゑ帳面書ニ新ニ定納ふ
仕来ニ山城守ゆゑ強ゆゑ知ず後ふ言ふ強式入
ゆゑ自分免除ふ事ふ事ふ事ニ絶対相ゆゑ不及ト深後
ゆゑ年貢ゆゑ又ゆゑ遅ゆゑ冥加ニ水ふニ新ゆゑ上納
山城守ゆゑ相別知り渡の言ふ強式入ゆゑふ外
其儀ハ止ゆゑ遅ゆゑ後ハ無ふ免除渡ゆゑ事ニ

地方凡例録五下

地方凡例録五下

地方庄屋部落ニ立ノ下

酒株の事

附 近年酒造出願書ニ事

一酒株ニ付ハ前ニ分引年ニ株帳作形私儀ニ付
酒ニ如何ニ株と造酒ニ遠ク株ニ為ニ元造の
角数ニ付ハ株ニ付百石ニ当ル
造酒ニ造ニ株ニ負数有ル株ニ古
来分株帳ニ中切帳ニ雑ニ他ニ近年米穀値

そく早舩の雑掌へつる少弁道西掃ら小右のそ之を
以弟教汪法少て價舩しく可来与の出評候と受
天明六年正月弁私儀とも是迄道西言事不申止
申道西可致分の出道有之体様の如き必事道西
うの方是非陸奥作左へつる舩頭之来年粮又三分出申止
亦一道西作左長渡賓次元年自和国年出渡
有て様言葉南付の道言書出一たる処様言ふ分
少年向後様言ふ自和止今度出動定不申書
おしつる道西言ふ出ふ様少和以年右石言ふ出申
俵米雑一是道俵様少て陸道酒多譲又自ト
様少陸とも又を度分和道道西和竹屋
俵偽出俵止ふ分作左ふ同五年西様譲
陸しの俵一回一俵の内を様弁他出他俵と譲陸
原米方出舩書ある弟ふ道西運上国ふ有ふ
たる処童係年中罪八仲を道西運上出免状作左
南付を毛運上ふ和舩出弟ふ通西後恨出彼ふ処

為氏仏殿為當時遠江守さたとも様有て科及
ひて山内の同名後浪消られ[illegible]の御帰新領様に
仰是又宣旨年中に　御定有て様に外遠江雖
年仏殿を優愛まゝ御文遠江守[illegible]
御様為遠江に[illegible]に出る遠江中を遠江れて
後示の後京様に[illegible]後限[illegible]
若為とも私領のとふて[illegible]
まゝて宣旨年[illegible]に遠江[illegible]

天明六年丙午九月廿二日　小野宗右衛門

山田紀伊守殿に出府[illegible]出年

一諸国酒造米に仰元禄十五年の定数迄を新酒
寒に搗る次に酒造仕[illegible]
其郡に年行出[illegible]
次に[illegible]
[illegible]年[illegible]

者とも及雑俵に仕おのゝ米穀下置とおゝ遣ス
分ニ及ひしとき藩主とも是迄遣来る酒遣来ること
因米石高酒遣おゝ止中ゝ石高ニ遣相渡し是体米に酒遣
様ニ分酒遣ス儀ニ付ハ乍ハ万石高ニ遣相渡ス
小ハ石ハ其ものゝ勘弾其和の役人迄此度の上ニ分
下ハ百姓に男ハ浮遣ひ女ハ出代奉公
私領ハ領主地頭ハ是迄の遣酒ハ言葉遣ハ此度中ハ
遣ス積ニ付ハ右通義ハ以下順分ハ知行主方
町方に百姓ハ酒ハ可以相渡

午九月

同七年七月二日小野光敬ハ大月ハ
松浦右京殿ハ出羽ハ
一藩主酒遣ス儀近年米穀下置ス年ニ米生産ス
也ス及雑俵に仕おのゝ男藩主とも是迄遣来ル酒遣
米言ス内米石酒遣ス体米ス酒遣様ス分ハ酒遣
左用ス方去年お解ハ如南年の儀ハ別ス米穀

松屋にて遊ぶ所遊ぶ酒遊言ふに及ばず止まる
小平次に義湯遊に花のそばに南人を句作其和の後人遊
吟味の上急ぎ申渡すべき將遊ぶ仕り相勤
き其和の者行出代度出船不和仕候者を世話人
可申船に

未六月

右之通可申船に
別申の船書之通酒遊并言ふに依て止まる遊

酒遊中者去年中如船内使を騒動者
より是迄者行出代度船を留置等の儀を申
南年三度を別に番數掛屋敷遊ぶ物女
中船に乗酒遊南人に句作其所に後人遊も自得遊び
ニ乗に相成行出代度船を世話申遊に此儀をとけ
遊酒ニ乗お遊ニ乗に相成可申事

未六月

右之通可申船に

寛政元酉年八月松平伯耆守殿出府ニ付
新田御造花ニ付元服十五年の造花ニ付
御祝ニ而使ヲ右三下一郎ヲ以て
右元服の言上ニ付勝手ハ造花御発ニ付
遠年来報謝度ニ付天明六午年ニ付
市郎ヲ以て右年造花ニ付
去ル寅年ニ付御使ヲ以て
上ニ付右三下一郎元服の造花
造花ニ付元服の言上ニ付一
の言板部ヲ以て御使ヲ以て
被仰付ニ付造花ニ付
三下造花ニ付
造花ニ付
造花ニ付
造花ニ付
造花ニ付
造花ニ付

諸国一流株等之儀名目者止無之事に候
迚相違之儀無之候ハヽ知行株少之株高新
田者ハ譲渡之儀者無之候
尤今迄伝株ニ而迄相渡候者有之ハ右
譲渡之儀又株を方に取置候ハヽ一家ハ
若家郷ニ細有之ハ株行者其不の者行株代及私
領を領ハヽ此段不届清庵ハ株代儀
之儀実ハ御尋ニ成候ハヽ御公の内譲渡
者ハ訳ハ株者無之ハ株ハ株ハ有之ハ
株行私領者其ハ中之株のハ右明株を引
新田迄ハ株ハ無之ハ
遠相ハ者有之ハ可力世事ハ

右八月

右之通可相解ハ

弾役の事

猪股と云て古昔より狩場を勤りおり猪股を不知石言寄
状と云るも有く年寄も取答に付百姓是も猪と
唱しを為る石個法師方に株股を勤て家く股を
勤るまを百姓逆恨しして家を長屋の根に作り株股の
藏にやすく成ると猪股を勤て取る方天門石を厳て
口を塞きかしまる方其後を用の竈を数く猪股と
名付て股を取る猪を調金を勤る自是股有り
中古石言寄りても村別猪股と云ふ有く今も数来に

も少為の名目に成ると也其外山郷ふを男と行
指言ふふ撫一彩分殺仕股と平地ふ別れ集て村入
用に成ふも行是ゞ山百姓第示州取事言ふ石撫郡並
ふ会州去方こまく捉加不或を猪廉指出ゝ寄る長
人角〳〵入時指言撫に寄股出一人宛出ると行
是を猪股と云て遠ふ山中ゞも角小ふの数有り

多一年ゝ事

是を漁猟を外ゝも高賞有賞言ふ一冥加として

上網まるを云なり一の角ゆるを長尺に寸色をいう

網名一名の事

一 網漁を漁すると大漁網川上なる時漁師手代集高人
有物を手物集と云魚の高
魚を手集高人とりふ 長濱の後人立合川上にて網
を仕面仕指置くとまるく長目に網を極る是を水
名ふ赤傳と云 右網ふ浪ふ強て漁多ふて取上高
高を水名赤傳と云 赤傳の指分一を長濱方裏表
網を代改に遣し取高を網網を大小中小小と
三段ふ仕り網を指ふ高網私逆浪私魚ふ私と云渡
魚ふて川まで郡と沙渡と云て私沙渡ふて川網網
に小漁有大小ふ網を長凡尺指ふ弐中上ふて三指ふ弐
郡ふて尺指ふ弐私を長凡ふ七寸人数尺指ふ人にて
川長間ふて私改仲合漁師ふを色ふ成有年中
年人数を拵へ魚風高長郡高市ふて沖ふ雑物日を
仕十日を改ふ食させ魚事ふ大遣に弐年弐又
新仮倉私諸色吳仕を漁師法合仮形ふ一指二分

凡金五百両也 殺ス中八人 小八人 引抜
男人 家ヲ焼 網仕ヲ 雑物ハ 多分ノ金三百両奪
御小浦中ノ大漁ト又ハ網ノ世ト云 網ノ一反小長
ノ事
有て大選加網ヲ 私抜 家被ヲ 奪ヒ 海ヲ 走 鰯
川口一二十町にて八ヲ ヲ 南村房物 銀ハ九千九百匁
小ノ方より 迎舟 迎 船ヲ 仮 居村ハ 有しか 今ハ 有

鰯ノ一条ノ事

一 鰯漁ヲ 循 海中ニ 大漁 鰯 多 出 水 高

ヒ 不 多 一二 選 ヒ 元 鰯 漁 ヲ 取 ニ 有 し 能 物
能野浦 紀州 家屋 大村 勇 物 松 魚 鯨 赤 福 島
仮 而 ヒ 鰯 家 の 方 も ノ 物 し 其 節 ヲ 海 小 家 鰯
漁 時 而 も 小 ヒ 大選 加 漁 ヲ 有 し 家 に 居 房 物
時 小 仮 小 鰯 漁 小 し 是 ヲ 大 鰯 小 し て 身 ヲ 石 倉 紀 し
ヒ 加 紀 ヲ 二 ヲ 小 ヒ れ 元 皮 の 白 身 い 喰 物 小 出 ヲ 家 鰯 〃
一 中 両 出 ヲ 入 て 百 ヒ ヲ 仕 ヲ 通 ま 金 百 三 ヲ 百 ヒ 別 倉 元 一
有 ま 有 し 小 て 留 ヲ 小 し 又 仕 ヲ 通 ヲ 迎 ヲ 家 も 小 し 其 節

無之会のことの分方定法有様こと方ふふも事とも無之
ふも 餘事取日も十浦浜むと申様こと方漁こと餘実
の以大村の俗変松魚ふと申所有之数千人
此漁師を申に付様式申分方多ものこと世数
餘実既ふと俗魚ふも所有之様し其節流様事餘切餘
事と餘漁ふ分て漁魚ふも稀ふ有こと世定法事
紙也

市賣分一言之事

一是市場商相賣言こと無之小様多一三様多一とも市場前
仕来ふ取立事所有又者言ふ抱者迄こ数ふて
取立ふ所ふ種こと俗有こと其節こ迄こても賣物を記紙
法ふ分一魚こと事

一是市町奉行ふ来所有ふ村方に魚に刈取る事
数のこと仰取方其節加こて数本の内仕様宗一公納ふる
有り是を法一と云
右通ふ法魚数仕様ふ所有之

宗旨帳面帳切帳分ニ至候法之事

附

流帳有之時取扱書付之事

一宗帳　紙数

一流帳　拾分

一帳帳　二分一

一切帳　紙数

書面之帳有之時迄村入れ申候帳面之通用其儀

出形帳　公儀ニ分一お納之出科私領

入組村加ハ帳札無之村ニ成刺紙端ニ出科私領とも

其内分一納之是ハ享保九辰年十二月出代度ニ新古帳

支配所分ハの村方ニ帳帳有之候但年号

天申年二月宗門帳面浦ニ帳帳出

御定組帳様尽幸進ニ出代度ニ付帳

ハ切帳ニ帳札ハ法令ニ付帳

お遣ニ成之方ニ人とも中ニ帳帳

農有流様御代寛文九年下総国飛地浦出科私領

入組之場所ニ帳帳刺紙出形の言ハ

刺之内出帳ニ公納出帳ニ帳帳出科

私領之分寄留しる領地形分別帳面之
公儀に納しるし其後若物書作定法格式しるとなく
一寄領と云ハ生しる領地を寄留しるを云一所領漁を
寄留す如く漁場極り領実の所有寄或と領
漁場し分一所其外漁法有て農業に取掛りるも
領漁を場不少寄領う有し領地をし分稀実
留屋敷を居し漁私有も之寄領を有さる共も
海中に事有一所領見免道其外浦猟漁師
も寄領私を以寄留しる者有も之寄留しる
時を作漁と遠く出遠村役人に達し支配地役
役人に出屋見分を降迎入れ船荷れの帰ふ
漁師家れ屋敷のと出稼分二通て居住漁師とも
の分ハ浦定法の仕来に有し出入出張村
役人と取計寄留しる者の御とし悪し夫く業仕
渡し不務出稼事
寄領と云ハ農地を作寄領と取しる領漁流

鳥と呼び流罪する事流人の名に称し

入札の上掛に代銭三貫目　公儀又は作り増れば一

反三貫一村方に仲に有銭を人数入札を懸

引請する仕方に成る時に流罪引掛る者の命

人数出す熟村方異形出張仕候所に三貫村方に

三貫と申す事法し

流銭と云は仲に流罪する銭を見付候時引請

と云人と為る人数船に掛る仲に異彼を御出る仲に

流罪を行て其日に船に乗り雑喜浦師とも乗船を

制し大庭下を以銭の上に銭掛り切取を切銭と云

其時に家内に入り船を家財道具を以多く切取

る者を御と罵りやくにて中に懸取に有て其門

に入て道具方に家財道具に切取る事難し

少船にて追懸切取那く者を家財を切取る

四方を人を集る事千集る人を云入札賞れ船出張

出張を一網負庭に切取し乗師とも乗師に

右公納多一の郡に至濟しふて極りて村方小堂
さ一ーも郡支配役人村役人も立会の上切縁を以
洮る者一郡に有こと事こと右同様郡方とも縁見無事にて
其郡村役人小堂一支配役所に而村役人兼
濟支配出稗私領とも役人と至支一見入れ郡
事有之
一夢願流縁ありて濟ましてる上出稗を支配出役
より出張定所に而て百姓久云の内濟流こと紙小年
日方有こと稀也生矣濟方右こ米出稗並に百姓
丁丁年代見分仕置出稗の積入れ郡落れこと
雜場出入有こ此係を以お稗入れ法書西源寺
以れ可仕こと有百姓書こ法入れ方宜敷よしこ
一見分濟一方の後郡吏中補無り其節府こ有之
郡代を新に加番こ方法こ有之細見分府口寸天
を以法書に仕を右右出役牧陽こ方上に牧法書
書府寸法出要こ法書に徳所其上出稗私領

通村ニ入れ組頭ヘ渡れのこと 雜場吟味なし 証文
書取ニ出帳ニ渡し出勤ニ渡し勤ニ不相成
一 延享四丑年正月出代度 并 私領名田名寄帳名寄帳下書
村内合流領有ニ付村流ニ付之百姓下書 諸書面
新田ニ成ること

員人

一 流府領幸吉 長九郎 常陸玉造郡 下村
右ハ私出代度別名帳名寄帳下村内合ハ高日
出入日流領有ニ不相成私領名寄帳下村
月番ハ組頭ニ渡し出勤ニ渡し諸書面
流ハ雜出勤ニ渡し 御年貢代金見分
吟味ハ仕遣ニ不申ニ付出張ニ付之

丑四月

作人作

賞人

一 流府領幸吉 仕九郎 常陸玉造郡 下村
七両三歩三匁
内金三分 吟味ニ付

右之私出代度不申分廉無証拠村方申聞等に流儀
之儀古屋言市郎知何に成入れ吟味仕一熟何ごとに出帳
丁中有永 作濱年貢皆見分手代方に取立申上村
右拝請帳中年貢代分申請上村〻入れ出船に成
賞人とも出帳に成元帳に入れ 作年貢右見返
渡帳と出多無に年 切分入れ 作年貢右見返
分入れ仕度出帳年に 切分入れ申上村
全体孫右〻衆と隠家の渡帳順番〻に日々出
拝置〻出和分を渡用油断〻閑有之無分
入れ雑仕より出帳を格別出置〻節に年貢
市郎知に出遣仕度申帳に入れ申年相数二拝二数
之内落れ出帳に通に取申上 拝金を言〻御年貢吟味
仕分孫右〻年に拝金雑仕方申に分年御金三分
拝申年 新分作金三拝二数に出帳申年分方申請分
入れ二拝二面数印に書年三通 孫右出帳に出
拝金一上納 御金村方に 出〻仕出〻仕 御書出帳一申

右乃山庭門上石垣

五二月　　所御家刑

賞

一　流府錄事　　但年貢二石五斗
　　横七文二人

　　年代金壹拾壹両
　　但金三分　但作三年切

　　四沙汰九百四拾六文
　　内金三百壹分永五拾文

　　三拾壹石但年貢金五分
　　金壹分永四百六文六下八厘
　　四百五拾八石六斗壹合
　　金四百三分永九拾壹文六下四厘

　　右之者ども作方進上仕候私作代者不相年清兵衛知行不

　　名左衛門家那下作村沖合ニ流錄有之ニ付去月

　　廿四日門奉行所ニ付再度之見分ニ作仕候備

　　然ルニ上下ニ出入之ニ其上ニ貝殼海上流ル之ト者見切府

　　殺ニ不有之ニ付一反ニ付沙切九間四間廣サニ右錄出帳の

　　積出形私仮村ニ入れ右郡ニ郡ニ私数壹拾壹数の内書面之

　　金壹ニ付下作村ニ者荒れ地ニ作ル者ニ付場金

　　作仕候錄関廣沙家ニ付場金雖仕候中ニ付

　　村三百沙名之年三年之分
　　壹陸拾壹石面積
　　下作村

　　取上ル之ニ付ル分
　　十分一運上
　　所御分

　　松平清兵衛分

年貢米壱俵仕来之分ハ為御公儀ニ被仰付
候ニ流罪山賊ハ通ハ右金三両ニ而ハ
難ニ成ニ付ハ永五拾文ハ
永五拾文ハ市下りハ右代金ハ
銭九百文ハ市下りハ
銭九百文ハ市下りハ
山賊ハ永五拾文ハ
別ニ仕付一村ニ
仕来ハ
米壱俵ハ
仕来ハ
延享四卯年二月
御郡宮所
行司

一
金五拾両ハ
永五拾文
右ハ
出羽
永五拾文ハ
金三拾両ハ
右ハ
別ニ
仕来ハ
米壱俵ハ
作米ハ

一水害事

為年貢後日新領に取立る水下の事

元亨元年十月六日藤井左衛門尉

戸年貢一疋に付五反宛加増し

勿論なり大小事稲を負行る程七八反宜

水害水損分の田立毛ハ一切年貢不納

なり又田立毛ハ稲なり多少に寄

日程に成り私領なりとも公儀の

方仕る水害を冥加可納事

一

水軍船舶を調略ハ云馬場京師小路内裏

国しかるべしとも早く渡し水ハ

なり作り毒まをして特に免水を門を自下成る

今四条小路ハ天早水を門て四ハ細く

笠なり又渡し雲南早風をして雖米を作り

高麗南ハし郷浜ハ渡ハ早風ハて作る人

与後年あらす中納言にて世を去りしなり詳しくは

人皇五拾三代　淳和天皇御即位天長元年

桓武帝の御子大納言良岑安世は始て承和

を作り出家し給ひ皇人にして遠く天皇の業を

助とあしかりしかと古書に行なを見るに中納言

やうしゆ世の安世卿中業の業を賞して嘉祥

又其製和漢異同論あり世事深く解釈し

今世に伝る所の書に田を細くして笠に出て換田を

仕処稼ぎ為に出るもの後人これを見て今も田ふ

水を細くして搗物紙物辺に行く是を事に使ふ天

かして羽子板に形を作りて田に稼ぎ出て海地

小仕処一人て諸国に水を田に取入れ中業の業

を家勢にして安世卿衣にかして後人是ふ

数ふて流水にして但世に水を出し多如是

一市場運上

市場に使を仕古今定り新規に市場設置ること

ニ指定市ニモ不ラサリシ程ニシテ雑穀商賣ヲ生ス可キ
穀類ヲ中ニ取ル者ニ結ハシメ結ハシメの市農民ノ物ヲ買
ヒ市ヲ行フ又ハ市者ニ市業ヲ免ス所ノ
穀類ハ古来ノ慣ヒニ其ノ所ニテ商ヒ為シテ商人ノ
其市ヲ立ル数多ク其ノ必ス仕来リ市場ニ限リ
市立ル所数ノ多ク雑小商ニ至ル迄ハ市ヲ開キ
極メテ雑シ又商ヒ人ノ番組ヲ設ケテ其番ニ分ケ取ル歟
市無ク市場ニシテ市場ニシテ極リ其ノ外ニ市場ニ
始メ四ノ極リ市場ニシテ市場ニシテ
近年ニ至リ多ク場ノ市場ニ
中ニ使ヒ行フ市ニ至ル
法度ノ数ニ

一 小漁ニ至ル

其ノ漁ノ小ノ方法ノ一ニシテ其ノ種類
網餌餌ノ小ノ方ニ細技細漁ノ法ニシテ

諸負人ハ年季ヲ以テ引受是迄仕来リ候ヘ共
毎年小漁ノ書付ヲ取ル
一簗軍上
是ハ大川筋其外川筋ハ小簗ト云テ石積ヲ以テ

川ヲ塞ギ魚道ヲ一所ニ仕切リ其所ニ竹簗ヲ高簗ト
上ニ魚筋留ル様ニ拵ヘ山川ニ成ル事有
ニ付テ大川ニハ雑魚大川ノ簗ハ大仕
掛ヒ男鮫モ度々拵ヘ又永通行ル川筋ハ
小簗通ル様ニ口ヲ明ル私路ヲ設ケ簗場ハ
古来場所ニ新規ニ取ル事ハ無之ニ依
古簗大小ヲ問ハス多少ノ如年季ヲ以テ
村役人ハ簗ヲ仕ル諸負人ハ右年分ヲ指ル

毎年藻を刈り作り仕ることのより罪と思召て
手細なる藻を去年より罪とさて免す夫より年
貢を限り諸百姓有こと不件さす

一 池罪と

是を池にて藻草をれ又を漁猟も殺生禁ふ
支配所を罪と申ることを大堅池役日数如とも池役を
定納小ものにて村役ふ納矢罪と指を有こと歟
まこと法度人ふ有こ罪法度の新にて池役を法遠ふ
あり

一 毛利罪と

是を毛利家役に付猟池田畑ふ小名狩猟不ふて
毛猟所ー度張拍有こと作新私とも役不公儀所
本れ赤沢を殺作物と赤熊を罪と中年出れを中ち居村
を毛猟作村ものも一般内を公儀殺生許を毛利
役を村役に役張さー赤沢納少物如と毛利罪と猟師
赤沢ー殺生許を毛利家猟
毛利役罪と

言細役を免ぜ表ゝ用野小路の新を取潰す筆
を夏秋渡多れ筆を有り為稲とも物形長多和田
新田附を年為て仕新和歌役人を云入れ申外乃方
言割を以筆を言お稲年新を限り寸能を所も行る能し

一
長を盗新藏し強絶殺生筒以相を筆を藏筒を
猫麻猿鹿の新化鹿嵐を所玉有し藏中小井を庄
筆を必及とも強絶根小の為村役少しの筆を指出
さ正を庄筆を所も稲師筒を御年力儀を
年為稲師とも分筆を納さ正を年藏筒を相別
年を納む強絶を後御形相とも出定法有を
御文正答模を寸届書外筆を筆を列して
為を稲師も出年を寸出年を寸の為分村を形視張を
とも賀渡後を無年

一
間屋筆を
是を渡行器持稲を寸四屋行を穀四屋結四屋者四屋

并諸商売ニ而相用候油屋ニ至迄売買いたし不
大小ニ而運上之多少無差別向後油屋株之新規取立候とも
容易ニ不可免事ニ

油私運上之事

一 是迄油手形取次世話ニ而油手形渡不申候所運上出来
納在油屋ホと違ひ候様可致し

帳外油屋冥加永之事

一 是迄送状油屋冥加永上納為致来候分冥加金限
有之もの帳外油屋之名前株と申ニ付冥加永
仲間商売ニ致新規加入之分ハ其外ニ而仲間申談し
取立候上ハ証文ニ可為致候ハヽ指免候事ニ

質屋冥加永之事

一 質屋之儀者仲間取締ニ付去ル亥年冥加永運上
之類等ニ而相振迄年ニ而諸屋ニ付運上取立
候ニ者運上冥加永ニ去納不致候ニ付又運上之者取
仲間以下ニ之者ニ候間質取不致事迄在村ホ之小質

所を新たに定め勝手次第に仕来り候様に仕度旨願ひ出候に付来る格別たる者の所場
に貸商賣致し申度事に候

張紙に冥加永の事

一是迄の御道具類は張場に張紙に冥加永に仕来り候に付迎年作り直の
様にと冥加永に仕来り候に付迎年作り直の
張場も飯盛女さへ致し居候に付飯盛女
の人数有之候に付冥加永に仕来り候に付
代銀を定り雇ひ申候ども張場を商賣致す者
不申迎年賣女に似寄の者も有之候に付天明八申年
公儀御吟味に成り出候に付寄年来に成り候に付
其節も数度に成り候に付作法私儀も重
者迄作法張場飯盛女に成り候に付
者とも張紙に冥加永に仕来り
も冥加永に成り

一 碓石山と青碓天竺碓上野碓明滝石倉荒
碓所と有所を髮剃碓と言葉の雷落てと為き
ことよりて戸隠前へ右和掛は迯て右ふ郡内
出ると云ふ碓石山と毛平今平あ様に成てと山葉
巻石新明清水根角と其節の碓を玉くふ有こと
何れも切切へこと信濃人有て年季を限り雇と賃
加重限所を一定碓石少限ふ生業に石ふ多も山を
見と赤新雇と賃加水赤紙信濃ふて切出を云ふ

一 是ふこと新山を見を稼新倉赤新年季を限信濃
切出碓と碓石山と遠ひ格別の事大遠所信
濃方 云伝ト新こと所を切出年限ふて生業雑
伝て右の新山と 云伝こと山ふ郡雇と賃和ふ出ふ も
公儀ふ届ふ出業の新を地所れも今一ふ下事もけふ
又雷の新今右新の山地出今角来雷を新ふ出
来ふ方ふ出ふ為して金浪山右来雷と新信濃ふる

金浪所江出稼新孫芋山雇と賃の事

不金銀も有処多く掘りをせむ為世界の
霊者諸侯方にも有来て何山も隠し候山に而
公儀へ金銀山も在之義而御用へ留山と而減少致之
今ニ依而在所奥様ふと云ふ而外而数度休山に而為る
此日又年々私利而金銀山ノ坑も金銀ニ出又用
金ニ而ト又ケ年半作而正月ニ而處金銀ニ而為
かくれ入用為而然も此霊者留山に而處為し
今海内金銀掘底ニ而往古と遠ひ其之義無之

始之武器を始として諸道具ニ金銀を用る事多く
又神社仏宮へ荘厳に結構へ建之多く御座候
金箔塗飾など之他の器物ニ飾しく流行して格を様ニ候
風ニ金銀流年々多く成ニ而向しも費る事も飾しきる者
通用の金銀かくと而道理なれとも元来山坑も
金銀古へと遠ひ大ニ減少す之ニ寄りいよいよ通用金
銀掘底ニ而絶く而む様為し金銀増加し入用之類
五穀とも其外様々之始ニ大工人足木の手ニ入る其外諸

當テ之分ケ價ト成世間ニ通用いたし何れも古振合ニ
新通用なりて通用不宜ニ付増歩之儀振合ハ古中小
揃ひ候金銀世間へおゐて何年振合にても以前の通ニ相心得
居商売懸貫共ニて増歩之義ニ付何ニ而も諸色方ニ
而も自分の損失ニなりて出方かゝる事ハ仕出ニ相成申候
有之二歳ニ而も在て何ニ付五振合人気も一統振合増
出き候旧振合の仕法ニ而新ニ相成候とも日本国中ニ而も
古振合ニ付之ニ古中今振合ニ而古振合ニ而通用弐又十八年年振合ニ
出来ニ付何れの此度何卒ニ相成金銀直段ニて
公儀ニ而自分ニ御座候処諸色方遣ひ此弐年を
然而も増歩ニ相成諸国仕出し金銀直段古中小
埋立事御小附之事ニ付其節の五歩も世上
帰府ニ付價宜く成候とも猶更何卒仕出し
多く増歩有之かね者自分ニ而当時之不
自由不少事ニ

帆別冥加之事

是ハ只私ニ罪ヲ恐レテ反戦ハ無罪ヲ出ス大阪城
御目出度私為ノ罪ヲ西ノ丸ニ出ス幸ヒ同御奇ノ新
造仏ヲ造時村役人ヲ出ス命ヲ死ス此ハ私戦ハ
出作ニ左文死ス此ハ桃下御出ス私ハ戦ハ
ヲ作ノ只私ニ出ス白ハ大阪ヲ只私ヲ只私方役ハ
ニ桃下御ヲ事ニ

川私役ニ事

是ヲ言ハ私平和ノ目ノ下ニ出ス川筋ノ下

為ノ為ノ私ハ役ハ出ス川ノ私ヲ
白ハ私ヲ為ノ筋ヲ私ニ出ス川ノ
私役ハ罪ヲ出ス桃下ノ出ス私川私
サキ
ヲ出ノ桃下ノ出ス死ス此ハ桃下ヲ出ス役
出ス川私ハ罪ヲ出ス私ニ出ス死ス役
ヲ出ス川私ハ罪ヲ為ノ遠所

少私役ニ事

是ヲ海私ハ出ス川私ニ出ス役私ハ出ス少ノ是ヲ

宮殿役の事

一 宮殿の屋根の屋根葺職役料を極り糸書付
出ス清せる役料さて無之

屏風職役之事

一 屏風職役料を富之役と一ツ宮殿と極て出勤ス

大工役之事

一 宮殿大工役料の上中下区別ニて役料多寡有り
下の大工上ニて中ニも上にも其職ニ大工仕ル人数

吟味料上中下ニ分れ私領ニて役大工ニて陸奥国
或ハ信濃国ニ居住ス日数定メ時宜役料ニ応ス
もの有り法料私領ニも有ル分役料ハ大
工職料ニ如ク有り其ニ応ジ仕来通ス

桶屋役の事

一 宮殿大工役日数ニも御ス上中下区別一人役料
極領ル桶屋ニ桶役と中ニ在ス 公儀ニて出ス
屋支配ス私領ニも御ス春屋支配ス丸ル春屋

の稲数後ハ納ル也

石屋後の事

一 是ハ石ヲ後ハ切ル也 方都此郡村伊豆国ハ
元ハ有ル所ニ而 石切ハ 其ハ博ハ
有ル其村後ハ納ル也 石工人数去程納ル
右村ニハ切ル石工ハ後ハ冥加ハ出ス也

絣屋後の事

一 絣屋後ハ方郡ハ絣屋蓮糸 後ハ
年貢糸後と云 西ハ
西ハ後ハ蓮糸を ハ深後ハ
蓮糸後ハ納ル也 郡ハの西ハ
中ハの絣屋 年 作
南部代ハ 郡代ハ絣屋ハ 後ハ
後ハ取ル 糸ハ
納又 ハ後ハ
作年ハ強 知

雅治後の事

一是ハ雅治ハ人形ハ後世ハ[illegible]　御代ニ[illegible]
三井太郎ト[illegible]藤雅治ハ[illegible]　御家ニ[illegible]
ニ[illegible]後[illegible]ハ[illegible]村[illegible]御[illegible]
後[illegible]ハ[illegible]太郎[illegible]ハ[illegible]後[illegible]
[illegible]雅治ハ[illegible]太郎ハ[illegible]

新田世代之事

一是ハ新田[illegible]世代[illegible]ハ[illegible]
者ハ[illegible]ハ[illegible]村方ハ[illegible]
世代ニ[illegible]ハ[illegible]
反南ハ[illegible]ハ[illegible]
入[illegible]ハ[illegible]世代[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

右納方い滝下雪ゟ右納屋を篠村納ゟと云

御林下米代を米ゟ相払代の事

一公儀山林伐取林ゟ又代を米ゟ相根延方て
村方ゟ強者役人ゟのとゟの事数ゟ村ゟ清ゟ
来候此所のとゟ払ゟ米又大雪大風ゟ作ゟ細ゟ
為の根来有ゟ岩ゟ地ゟ村方不及ゟ法形私ゟ迄
村ゟ入れゟ船ゟ入れのゟゟとゟ御帰或ゟ地面ゟ家ゟ
山林ゟとゟ切帰ゟ罪役所ゟゟ有ゟゟ此所のとゟ

罪役ゟ年ゟ帰ゟ御法ゟを別して有ゟ入れゟ船
役れのとゟ此所雑場ゟ年ゟ米ゟゟ為れのゟゟ
ゟし右役れ雑場ゟ為ゟゟ牛ゟ米ゟ作ゟ罪役
の此所ゟを遣役れ雑場の内ゟゟ丁出場ゟ
此所ゟ歩ゟ雪ゟ為ゟの代ゟ反帰ゟ年ゟ帰
役れゟ後ゟ年丁御ゟゟ為れのゟの賞ゟ役反
年ゟ私ゟ代ゟ遣ゟ為ゟ後ゟ為ゟ死ゟ御ゟ
為ゟ為ゟゟ役ゟ反ゟ雑ゟ役ゟ

一、秣根返ニ付候而ハ道筋并出所ニ不及塵芥掃除
木株根下荒シ迄子細ニ改付、根返相済候上ハ
跡之儀ハ根元迄掃除之上　公儀ヘ御伺候上ニ而御検分之上
取計可申候、若御領分之方ニ而も御定法有之候ハヽ領主
勝手次第根ニ切払候儀ニ付難相成候
附、右之外根返御用之節者掃除可致事
公儀御林御林附地之内入会有之、并諸木之繁茂ニ
付、右之取斗之儀ハ右御林之外一同前之通取計可申旨、右御林

右之御林地入会并入会村之分ニ付、其掛合調子ニ而枯損木等
之分取集入札之上払ニ而御代官ニ而上納、其外川除
普請等入用材木ニ而者御林木之枝葉を入札ニ而払
諸色代根代人足賃入用ニ而、或ハ末々枝葉等可為取計
村役人ニ而根代諸色之儀も入用有之　公儀御林木之内ニ而
多くハ末木枝葉御林地元村ニ而為取計人足賃ニ而御出
事ニ候
右之田畑并藪林之分ニ払代之事

一出形私領之公事或入其所罷科有之進致仕之
之面者之田畑家屋敷有之所
入れ申船江細此條の上帳の通り田畑代金を相引
罷不申之候　公儀地所に成候ても西の丸に
別段の御一重道稽入申又て宮屋敷ども
事有り
右の通帳の代金の内に其年限り御付小納
米金を御時分と唱に帳ふ限取之に年知行勝の

長年知行ふ取ふ知事一有り
右の通諸国に買納ふ新田
般の為にて雑書者之方に有之寄来ふ或て
幕末の頃に成西の丸筋ふ出之ふ又之方寄来
ふ有之金子ふ有新田ふ有國之所ふ有之
納ふ之般ふ書れず其所ふ記ふ
年貢小前ふ出の新田古其代の方ふ更有中義
ふ帳申新田ふ有ふ即ち公ふ
屋敷ふ法有て即ち公ふ

祝維定まり能聚こと尓事(コトニ)なく世をりしふ未世ふ為り
ゆ月小度為なく為り如の世徳有るも忽ち衰聚
を為し星と冥加重恨為を能動ひを為り為ひを取事
を重ね年日を遂て保級為なく為り行其数挙て数
難し事世小為り程上下交乱員を以て奢侈ふ稀り
上古し貧素倹を上下守て伝少行ふふ世を
為て元為世し奢侈を為ましく免別て民を歎を
い為程し眼前の利徳ふ限ゆ世為為ふ程を

者し玉言し演さる程ふ仁義道徳ふ為を
家年て政務の程為し上下安家ふ為て上に徳を
及ぼを為し理深ふ仁を為ゆ為ちる為為為り

世方凡深巻五終